

- For more records, click the Records link at page end.
- To change the format of selected records, select format and click Display Selected.
- To print/save clean copies of selected records from browser click Print/Save Selected.
- To have records sent as hardcopy or via email, click Send Results.

☒ Select All
☒ Clear Selections

Print/Save Selected

Send Results

Format
 Display Selected Free

1. ☐ 3/5/1 DIALOG(R)File 352:Derwent WPI (c) 2007 The Thomson Corporation. All rts. reserv.

0007674480

WPI Acc no: 1996-295496/199630

XRAM Acc no: C1996-093966

Gel type cleansing compsn. with good stability - contains nonionic surfactant, water, water soluble cpd. contg. hydroxyl gp., liq. oil and water.

Patent Assignee: NONOGAWA SHOJI KK (NONO-N)

Inventor: KITAHARA M; KIYOTAKI M; MATSUMOTO Y

Patent Family (2 patents, 1 countries)

Patent Number	Kind	Date	Application Number	Kind	Date	Update	Type
JP 8127512	A	19960521	JP 1994292049	A	19941031	199630	B
JP 3454943	B2	20031006	JP 1994292049	A	19941031	200367	E

Priority Applications (no., kind, date): JP 1994292049 A 19941031

Patent Details

Patent Number	Kind	Lang	Pgs	Draw	Filing Notes
JP 8127512	A	JA	6	0	
JP 3454943	B2	JA	6		Previously issued patent JP 08127512

Alerting Abstract JP A

Compsn. has a gel structure and contains nonionic surfactant, water soluble cpd. contg. hydroxyl gp., liq. oil and water.

ADVANTAGE - The compsn. has good cleansing effect and stability simultaneously.

Title Terms /Index Terms/Additional Words: GEL; TYPE: CLEAN; COMPOSITION; STABILISED; CONTAIN; NONIONIC; SURFACTANT; WATER; SOLUBLE; COMPOUND; HYDROXYL; GROUP; LIQUID; OIL

Class Codes

International Patent Classification

IPC	Class Level	Scope	Position	Status	Version Date
A61K-007/02			Main		"Version 7"
A61K-007/00; A61K-007/48			Secondary		"Version 7"

File Segment: CPI

DWPI Class: D21

Manual Codes (CPI/A-N): D08-B01

Derwent WPI (Dialog® File 352): (c) 2007 The Thomson Corporation. All rights reserved.

☒ Select All
☒ Clear Selections

Print/Save Selected

Send Results

Display Selected Format
 Free

© 2007 Dialog, a Thomson business

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-127512

(43) 公開日 平成8年(1996)5月21日

(51) Int.Cl.⁵

A 6 1 K 7/02

7/00

7/48

識別記号

A

R

C

J

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 3 F D (全 6 頁)

(21) 出願番号

特願平6-292049

(22) 出願日

平成6年(1994)10月31日

(71) 出願人 000249908

有限会社野々川商事

愛知県名古屋市中区丸の内3丁目5番24号

(72) 発明者 清滝 学

名古屋市西区烏見町2丁目130番地 日本

メナード化粧品株式会社中央研究所内

(72) 発明者 松本 康典

名古屋市西区烏見町2丁目130番地 日本

メナード化粧品株式会社中央研究所内

(72) 発明者 北原 路郎

名古屋市西区烏見町2丁目130番地 日本

メナード化粧品株式会社中央研究所内

(54) 【発明の名称】 ゲル型クレンジング用組成物

(57) 【要約】

【目的】 新規なゲル型クレンジング用組成物を提供する。

【構成】 非イオン界面活性剤、水酸基を有する水溶性化合物、液状油及び水を含有し、かつゲル構造体であることを特徴とするクレンジング用組成物に関する。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 非イオン界面活性剤、水酸基を有する水溶性化合物、液状油及び水を含有し、かつゲル構造体であることを特徴とするクレンジング用組成物。

【請求項2】 非イオン界面活性剤がポリオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、又はソルビタン脂肪酸エステル、水溶性化合物が多価アルコール、糖誘導体のエチレンオキサイド付加物、液状油が炭化水素、エステル類、シリコン油であることを特徴とする

【請求項1】のクレンジング用組成物。

【請求項3】 非イオン界面活性剤がポリオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、又はソルビタン脂肪酸エステル、水溶性化合物がグリセリン、又は糖アルコール類のエチレンオキサイド付加物、液状油が流動パラフィン、トリ-2-エチルヘキサン酸グリセリン、メチルフェニルポリシロキサンであることを特徴とする

【請求項1】のクレンジング用組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、ゲル型クレンジング用組成物に関し、更に詳細には優れたクレンジング効果及び良好な安定性を合わせ持つゲル型クレンジング用組成物である。

【0002】

【従来の技術】皮膚の汚れやメイクアップ化粧料を落とす目的で、水中油型エマルジョンのクリーム状の形態のものが市販されている。これは、製造時及び使用直前まで水中油型の乳化系を保ち、使用時の圧力により乳化を破壊することにより内相の油分を溶出し、クレンジング効果を発揮させることを主眼として開発されている。また最近では、親水性非イオン界面活性剤よりなる液晶体を利用したクレンジング料が報告されている（特公平1-53845号公報）。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、水中油型エマルジョンの場合、エマルジョンであるがゆえ、熱力学的に不安定な系であり、クリーミング、凝集、合一等の過程により、長時間経過するとエマルジョンが破壊してしまう。また、エマルジョンを形成するためには、内相の油分量には限度があるため、クレンジング効果には限界がある。さらに、ティッシュオフ操作なしにある程度洗い流すことも可能ではあるが極めて不十分であり、油成分が肌に残留する欠点がある。一方、液晶型油性化粧料は、これらの欠点は解決しているものの、用いられる活性剤が非イオン界面活性剤のみであること、また、液晶構造体を有しているため構造が壊れにくく、メイクアップ化粧料となじみにくいという欠点がある。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明者らは、上記問題点を解決すべく、鋭意研究を重ねた結果、非イオン界面活性剤、水酸基を有する水溶性化合物、液状油及び水から得られるゲル構造体が上記問題点を解決する優れたクレンジング用組成物になることを見出し本発明を完成した。

【0005】すなわち本発明は、優れたクレンジング効果及び良好な安定性を合わせ持つゲル型クレンジング組成物に関するものである。

10 【0006】また、本発明におけるゲル構造体とは、分散相と連続相の2相からなるO/Wエマルジョン又はW/Oエマルジョンではなく、均一な相領域で、外観が半透明又は透明なゲル状である。

【0007】本発明に用いられる非イオン界面活性剤としては、例えばポリオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシプロピレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、ソルビタン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル、ポリオキシエチレングリコール脂肪酸エステル、プロピレングリコール脂肪酸エステルの酸化エチレン誘導体、モノもしくはポリグリセリン脂肪酸エステルの酸化エチレン誘導体、トリメチロールプロパン脂肪酸の酸化エチレン誘導体、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油脂肪酸エステル、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油ピログルタミン酸エステル、ポリオキシエチレングリセリルピログルタミン酸エステル等のポリオキシアルキレン型非イオン界面活性剤；ショ糖脂肪酸エステル類；アルキルグルコシド類；ポリグリセリン脂肪酸エステル；ポリグリセリンアルキルエーテル類等が挙げられる。より具体的には、ポリオキシエチレン(5)硬化ヒマシ油、ポリオキシエチレン(7)硬化ヒマシ油、ポリオキシエチレン(10)硬化ヒマシ油、ポリオキシエチレン(20)硬化ヒマシ油、ポリオキシエチレン(30)硬化ヒマシ油、ポリオキシエチレン(40)硬化ヒマシ油、ポリオキシエチレン(50)硬化ヒマシ油、ポリオキシエチレン(60)硬化ヒマシ油、ポリオキシエチレン(3)ラウリルエーテル、ポリオキシエチレン(5)ステアシルエーテル、ポリオキシエチレン(5)デシルテトラデシルエーテル、ポリオキシエチレン(10)デシルテトラデシルエーテル、ポリオキシエチレン(15)デシルテトラデシルエーテル、ポリオキシエチレン(20)デシルテトラデシルエーテル、ポリオキシエチレン(25)デシルテトラデシルエーテル、ポリオキシエチレン(5)ヘキシルデシルエーテル、ポリオキシエチレン(10)ヘキシルデシルエーテル、ポリオキシエチレン(15)ヘキシルデシルエーテル、ポリオキシエチレン(20)ヘキシルデシルエーテル、ポリオキシエチレン(25)ヘキシルデシルエーテル、ポリオキシエチレン(5)オクチルドデシルエーテル、ポリオキシエチレン(10)オクチルドデシルエーテル、ポリオキシエチレン(16)オクチルドデシルエーテル、ポリオキシエチレン

(20) オクチルドデシルエーテル、ポリオキシエチレン(2)
 5) オクチルドデシルエーテル、ポリオキシエチレン(3)
 グリセリルモノイソステアレート、ポリオキシエチレン
 (6) グリセリルモノイソステアレート、ポリオキシエチ
 レン(15) グリセリルモノイソステアレート、ポリオキシ
 エチレン(30) グリセリルモノイソステアレート、ポリオ
 キシエチレン(10) グリセリルトリイソステアレート、ポ
 リオキシエチレン(20) グリセリルトリイソステアレー
 ト、ポリオキシエチレン(30) グリセリルトリイソステア
 レート、ポリオキシエチレン(40) グリセリルトリイソス
 テアレート、モノオレイン酸ソルビタン、モノステアリ
 ン酸ソルビタン、ジグリセリンモノステアレート、ポリ
 オキシエチレン(8) トリメチロールプロパントリミリス
 テート、ポリオキシエチレン(20) トリメチロールプロパ
 ントリミリステート、ポリオキシエチレン(30) トリメチ
 ロールプロパントリミリステート、ポリオキシエチレン
 (6) ジイソステアレート、ポリオキシエチレン(12) ジイ
 ソステアレート、ポリオキシエチレン(5) セチルエーテ
 ルステアレート、ポリオキシエチレン(10) セチルエーテ
 ルステアレート、ポリオキシエチレン(6) ソルビタンモノ
 ラウレート、ポリオキシエチレン(20) ソルビタンモノ
 ラウレート、ポリオキシエチレン(20) ソルビタンモノス
 テアレート、ポリオキシエチレン(20) ソルビタンモノオ
 レエート、ポリオキシエチレン(30) ソルビトールテトラ
 オレエート、ポリオキシエチレン(40) ソルビトールテトラ
 オレエート等が挙げられる。これらのうち、特に、ポ
 リオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレ
 ンソルビタン脂肪酸エステル、ソルビタン脂肪酸エステ
 ル等が好ましい。

【0008】界面活性剤は、本発明のクレンジング用組
 成物の全組成に対し、1～30重量%（以下、単に%で
 示す）、特に5～25%の範囲で配合するのが好まし
 い。1%より少ない場合には組成物の洗浄性、水洗性が
 不充分になり、30%を超える場合には組成物が増粘又
 は固化してしまうことがあり、好ましくない。

【0009】本発明に用いられる水酸基を有する水溶性
 化合物としては、分子中に水酸基を有し、かつ水に溶解
 するものならば特に限定されないが、例えば多価アルコ
 ール、低級アルコール等が挙げられる。多価アルコール
 としては例えば、エチレングリコール、ジエチレングリ
 コール、トリエチレングリコール、それ以上のポリエチ
 レングリコール類、プロピレングリコール、ジプロピレ
 ングリコール、それ以上のポリプロピレングリコール
 類、1, 3-ブチレングリコール、1, 4-ブチレング
 リコール等のブチレングリコール類、グリセリン、ジグ
 リセリン、それ以上のポリグリセリン類、ソルビトール
 、マンニトール、キシリトール、マルチトール等の糖
 アルコール類、グリセリン類のエチレンオキシド、プロ
 ピレンオキシド付加物、糖アルコール類のエチレンオキ
 シド、プロピレンオキシド付加物、ガラクトース、グル

コース、フルクトース等の単糖類とそのエチレンオキシ
 ド、プロピレンオキシド付加物、マルトース、ラクトー
 ス等の多糖類とそのエチレンオキシド、プロピレンオキ
 シド付加物等が挙げられる。低級アルコールとしては例
 えば、エタノール、イソプロピルアルコール等が挙げら
 れる。これらのうち、特に、グリセリン、糖アルコール
 類のエチレンオキシド付加物等が好ましい。

【0010】水酸基を有する水溶性化合物の配合量は、
 組成物の使用感等により異なるが、本発明のクレンジン
 グ用組成物に対し1～50%、特に5～15%配合する
 のが好ましい。

【0011】本発明に用いられる液状油としては、常温
 で液体状またはペースト状の物であれば特に限定されな
 いが、例えば炭化水素、天然油、エステル類、シリコー
 ン油、高級脂肪酸、高級アルコール等が挙げられる。よ
 り具体的には、炭化水素としては流動パラフィン、スク
 ワラン、天然油としてはオリーブ油、ホホバ油、月見草
 油、ヤシ油、エステル類としてはイソプロピルミリス
 テート、セチルイソオクタノエート、ジカプリン酸ネオ
 ペンチルグリコール、トリ-2-エチルヘキサン酸グリセ
 リン、1-イソステアロイル-3-ミリストイルグリセ
 リン、2-エチルヘキサン酸ジグリセリド、シリコー
 ン油としてはメチルシリコーン、メチルフェニルシリコ
 ン、1-ヘキシル-3-ウンデカメチルヘキサシロキシ
 プロピニルグリセロール、高級脂肪酸としてはイソステ
 アリン酸、オレイン酸、高級アルコールとしてはヘキサ
 デシルアルコール、オレイルアルコール等が挙げられ
 る。これらのうち、特に、流動パラフィン、トリ-2-
 エチルヘキサン酸グリセリン、メチルフェニルポリシロ
 キサン等が好ましい。

【0012】液状油は、本発明のクレンジング用組成物
 の全組成に対し20～85%、特に30～70%配合す
 るのが好ましい。

【0013】また水分量は、本発明のクレンジング用組
 成物の使用目的、要求される物性等に応じて適宜選択し
 得るが、全組成に対し1～90%、特に5～30%配合
 するのが好ましい。

【0014】本発明のゲル型クレンジング用組成物は、
 アニオン界面活性剤を配合すると、クレンジング効果が
 さらに良くなる。本発明に用いられるアニオン界面活性
 剤としては、例えばポリオキシエチレンアルキルエー
 テルリン酸塩等が挙げられる。より具体的には、ポリオキ
 シエチレン(4)ラウリルエーテルリン酸ナトリウム、ポ
 リオキシエチレン(10)ラウリルエーテルリン酸ナトリウ
 ム、ポリオキシエチレン(5)セチルエーテルリン酸ナト
 リウム、ポリオキシエチレン(8)オレイルエーテルリン
 酸ナトリウム等が挙げられる。

【0015】本発明のクレンジング用組成物は、以上の
 各成分をゲルを形成する配合組成で混合することにより
 製造される。そのような配合組成は、当業者が通常行う

各成分の配合試験により適宜決定することができる。その配合組成選択にあたって基本的に留意されねばならない点は、本発明の組成物の形成時に、界面活性剤分子の会合が最大となる水溶性化合物の種類及び量と混合比率を選択することにある。また、その製造は通常各成分をそれらの融点以上の温度で混合して溶解し、これを攪拌しながら室温付近まで冷却することにより行われる。

【0016】本発明のクレンジング用組成物には、さらに化粧料等に通常使用される薬効剤、保湿成分、抗炎症剤、殺菌剤、防腐剤、紫外線吸収剤、酸化防止剤、有機及び無機粉体、色素、香料等を必要に応じて配合することができる。また、発明の効果を損なわない範囲で固形油分、半固形油分を加えることができる。

【0017】

【作用】本発明のゲル型クレンジング組成物は皮膚に塗布すると体温による温度上昇、水分蒸散によるHLBの変化、伸ばす時の応力によりゲル構造体の一部が変化する。この状態では油成分は連続相になり、界面活性剤の連続会合体が分散的になって軟化又は液化する。その後、さらに水が加わると、塗布前の均一ゲル相を經由して直ちに逆に界面活性剤が連続相となり、油成分は分散相になる。この状態では界面活性剤が油水界面へ極めて高い密度で配向するため油水間の界面張力が著しく低下し、油成分は極めて微細な水中油型乳化粒子となって皮膚上から容易に除去される。

【0018】

【実施例】次に、本発明の一層の理解のために、実施例を挙げて更に詳細に説明するが、本発明は、これによって限定されるものではない。

【0019】実施例1 クレンジングゲル

下記成分の全組成を加温溶解、混合及び冷却操作を施すことにより、クレンジングゲルを調製した。

(組成)	(%)
ポリオキシエチレン	1.0
ソルビタンモノステアレート (20E.0.)	
モノステアリン酸ソルビタン	2.5
ポリオキシエチレン	5.0
オクチルドデシルエーテル (20E.0.)	
メチルフェニルポリシロキサン	5.0
トリ-2-エチルヘキサン酸	10.0
トリグリセリン	
流動パラフィン	55.0
ポリオキシエチレン	3.0
メチルグルコシド (10E.0.)	
グリセリン	5.0
精製水	13.5

本発明品は非常にのびが良く、べとつきがなくさっぱり

して使用感が良好であり、また安定性や洗浄性、水洗性にも優れていた。

【0020】比較例1 クレンジングクリーム

下記成分の全組成を加温溶解、混合及び冷却操作を施すことにより、クレンジングクリームを調製した。

(組成)	(%)
ポリオキシエチレン	3.0
オレイルエーテル (5E.0.)	
モノステアリン酸ソルビタン	1.0
ポリオキシエチレン	2.0
オレイルエーテル (10E.0.)	
ワセリン	5.0
トリ-2-エチルヘキサン酸	10.0
グリセリン	
流動パラフィン	45.0
1,3-ブチレングリコール	5.0
精製水	29.0

20 本品はゲル構造体を形成せずエマルションになり、分離安定性が悪く、使用後の水洗性も劣った。

【0021】実施例2 クレンジングゲル

下記成分の全組成を加温溶解、混合及び冷却操作を施すことにより、クレンジングゲルを調製した。

(組成)	(%)
ポリオキシエチレン	1.0
セチルエーテルリン酸ナトリウム (5E.0.)	
ポリオキシエチレン	1.0
ソルビタンモノステアレート (20E.0.)	
モノステアリン酸ソルビタン	2.5
ポリオキシエチレン	5.0
オクチルドデシルエーテル (20E.0.)	
メチルフェニルポリシロキサン	5.0
トリ-2-エチルヘキサン酸	10.0
トリグリセリン	
流動パラフィン	55.0
40 ポリオキシエチレン	3.0
メチルグルコシド (10E.0.)	
グリセリン	5.0
精製水	12.5

本発明品は非常にのびが良く、べとつきがなくさっぱりして使用感が良好であり、また安定性や洗浄性、水洗性にも優れていた。

【0022】実施例3 クレンジングゲル

下記成分の全組成を加温溶解、混合及び冷却操作を施すことにより、クレンジングゲルを調製した。

50

(組成)	(%)	
ポリオキシエチレン	1.0	
セチルエーテルリン酸ナトリウム (5E.0.)		
ポリオキシエチレン	1.0	
ソルビタンモノステアレート (20E.0.)		
モノステアリン酸ソルビタン	1.5	
セスキオレイン酸ソルビタン	1.0	
ポリオキシエチレン	5.0	10
オクチルドデシルエーテル (20E.0.)		
イソステアリン酸	3.0	
メチルフェニルポリシロキサン	5.0	
トリ-2-エチルヘキサン酸	10.0	
トリグリセリン		
流動パラフィン	52.0	
ポリオキシエチレン	3.0	
メチルグルコシド (10E.0.)		20
グリセリン	5.0	
精製水	12.5	

本発明品は非常にのびが良く、べとつきがなくさっぱり
して使用感が良好であり、また安定性や洗浄性、水
洗性にも優れていた。

【0023】実施例4 クレンジングゲル

下記成分の全組成を加温溶解、混合及び冷却操作を施す
ことにより、クレンジングゲルを調製した。

(組成)	(%)	
ポリオキシエチレン	1.0	30
セチルエーテルリン酸ナトリウム (5E.0.)		
ポリオキシエチレン	3.0	
ソルビタンモノステアレート (20E.0.)		
モノステアリン酸ソルビタン	1.5	
セスキオレイン酸ソルビタン	1.0	
ポリオキシエチレン	3.0	
オクチルドデシルエーテル (20E.0.)		40
イソステアリン酸	3.0	
メチルフェニルポリシロキサン	5.0	
トリ-2-エチルヘキサン酸	10.0	
トリグリセリン		
流動パラフィン	52.0	
ポリオキシエチレン	3.0	
メチルグルコシド (10E.0.)		
グリセリン	5.0	
精製水	12.5	50

本発明品は非常にのびが良く、べとつきがなくさっぱり
して使用感が良好であり、また安定性や洗浄性、水
洗性にも優れていた。

【0024】表1に実施例1と比較例1のクレンジング
効果の結果を示した。なおクレンジング効果は、頬にサ
ンプルをつけ、50回指でこすり、美容技術者20人に
よる官能試験で行った。

【0025】

(表1)

	官能試験				
サンプル	A	B	C	D	総合評価
実施例1	11	9			A
比較例1		3	11	6	C
実施例2	14	6			A
実施例3	17	3			A
実施例4	15	6			A

表中数字は人数を示す

官能試験評価基準

A: クレンジング効果あり

B: クレンジング効果ややあり

C: クレンジング効果ややなし

D: クレンジング効果なし

【0026】また表2に安定性の結果を示した。なお、
安定性は0℃、50℃の恒温器および室温にそれぞれ1
カ月間サンプルを放置し、外観、状態、色、においなど
を観察し、総合的に判定した。

【0027】

(表2)

サンプル	安定性		
	0℃	室温	50℃
実施例1	○	○	○
比較例1	○	○	×
実施例2	○	○	○
実施例3	○	○	○
実施例4	○	○	○

安定性評価基準

○：外観、状態、色、におい変化なし

△：外観、状態、色、においや変化あり

×：外観、状態、色、におい変化あり

【0028】表1及び表2から明らかなように本発明のゲル状クレンジング組成物は優れたクレンジング効果及び安定性を有している。

【0029】

【発明の効果】本発明にかかるゲル状クレンジング組成物は、優れたクレンジング効果及び安定性を有しているものである。